



東北のかなめ

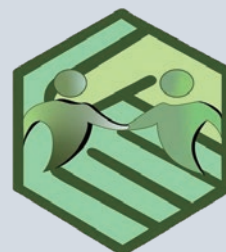
vol.66 (2024.10)



写真提供: 福島県二本松市
二本松の提灯祭り

【CONTENTS】

- ✓ 自衛隊・米軍の訓練を支援
- ✓ トピックス
 - ・ 米軍三沢基地 第35戦闘航空団指揮権交代式
 - ・ 田植え体験日米交流を通訳支援
 - ・ 創立記念行事などでの政策広報
 - ・ 三沢飛行場周辺航空事故連絡協議会
 - ・ 令和6年度 優秀工事等顕彰状の授与
- ✓ インフォメーション
- ✓ ようこそわが街へ（第36回）～福島県二本松市～
- ✓ 防衛関連企業シリーズ^①：株式会社藤加工所



米国主催多国間演習「ヴァリアント・シールド2024」

令和6年6月7日から6月18日までの間、自衛隊は、米国主催多国間演習「ヴァリアント・シールド2024」に参加しました。

「ヴァリアント・シールド」はこれまで米国が実施してきた統合実動演習ですが、米国からの招待を受け、今回初めて自衛隊が本演習に参加し、主に日本周辺海空域及び日本国内の自衛隊施設などにおいて各種の戦術訓練を実施しました。

本演習では、海上自衛隊八戸航空基地（青森県八戸市）と航空自衛隊松島基地（宮城県東松島市）に、米空軍のF-16戦闘機と地上要員が展開し、展開先である自衛隊基地において運用態勢を確立するとともに、近隣の訓練空域において自衛隊戦闘機等との共同訓練を実施しました。

東北防衛局は、地元の皆さまの安全・安心の確保のため、関係自治体などとの連絡体制を構築し、訓練に関する情報提供などを行いました。



米空軍のF-16戦闘機の地上支援
（海自八戸航空基地）



米空軍のF-16戦闘機のランプイン
（空自松島基地）



野蒜海岸（東松島市）での奉仕活動。
渡部琢也松島基地司令（左）、
渥美巖東松島市長（中央）と米軍人

【写真提供：海上自衛隊第2航空群（左）、航空自衛隊第4航空団（右2枚）】

令和6年度機雷戦訓練（陸奥湾）及び掃海特別訓練

7月16日から7月28日までの間、海上自衛隊は、陸奥湾において、日米同盟の抑止力・対処力を強化すべく、令和6年度機雷戦訓練及び掃海特別訓練を実施しました。訓練には、海上自衛隊と米海軍の艦艇や航空機などが参加しました。

この訓練は、訓練海面内での漁業の操業を制限して行われるため、東北防衛局は、漁業者が被った漁業経営上の損失の補償を行っています。



大湊（青森県むつ市）に集結した掃海部隊



掃海母艦「うらが」から発艦する
米海軍の掃海ヘリコプター



航走体の海中への投入

【写真提供：海上自衛隊掃海隊群】

米軍三沢基地 第35戦闘航空団指揮権交代式

7月8日、三沢基地(青森県三沢市)において、第35戦闘航空団指揮権交代式が行われ、新司令官として、在韓米軍烏山(オサン)基地第51航空団副司令官のポール・T・デイヴィッドソン大佐が着任しました。着任したデイヴィッドソン大佐は、「同盟強化につながるよう、地元の皆さまと交流を深めたい。」とあいさつしました。

また、離任する前司令官のマイケル・P・リチャード大佐に、日米両国の信頼と協調関係の増進に大きく寄与した功績をたたえ、中野東北防衛局長(当時)から感謝状を贈呈しました。



在日米軍司令官リッキー・N・ラップ
中將(左)から軍旗を受け取る
デイヴィッドソン大佐(中央)



中野局長(当時)(左)と離任する
リチャード大佐(右)

田植え体験日米交流を通訳支援

6月5日、青森県つがる市立車力小学校の5年生の田植えの体験授業に、米陸軍車力通信所の軍人等が地域との交流を図るためボランティアで参加し、東北防衛局は通訳支援を行いました。

天候にも恵まれ、日米の参加者は裸足で田んぼに入り、身振り手振りを交えた英語と日本語でコミュニケーションをとりながら、泥まみれになって、田植えを楽しみました。

車力小学校と米陸軍車力通信所は、今後も、かかし作りや稲刈りなど、米作りに関連した行事を通じて交流を深めていきます。



コミュニケーションをとりながら
田植え作業をする児童と米軍人ら



田植え作業のあと、みんなで記念撮影

創立記念行事などでの政策広報

東北防衛局は、防衛省の政策や自衛隊の活動などについて、地域の方々のご理解をいただくため、自衛隊の創立記念行事などで、広報ブースを開設して政策広報に努めています。

陸上自衛隊青森駐屯地と海上自衛隊八戸航空基地では、来場者に各種パンフレットを配布したほか、防衛白書のパネル展示とクイズ形式の問題を用意して、全問正解者には、オリジナル缶バッジをプレゼントしました。



第9師団・青森駐屯地創立記念行事
(6月9日)



八戸航空基地サマーフェスタ
(7月28日)

三沢飛行場周辺航空事故連絡協議会

8月8日、三沢市国際交流教育センターにおいて、令和6年度三沢飛行場周辺航空事故連絡協議会を開催しました。

米空軍三沢基地、航空自衛隊三沢基地、東北防衛局、三沢飛行場周辺の区市町村・警察・消防などで構成されるこの協議会は、三沢飛行場周辺において航空機の事故や事故に伴う災害が発生した場合の対処に万全を期すため、相互の緊密かつ迅速な連絡調整体制の整備について、連絡協議を行っています。

協議会では、海上保安庁八戸海上保安部から「航空事故発生時の対応」、国土交通省東京航空局三沢空港事務所から「三沢空港周辺でのドローンの飛行」「民間航空機の捜索救難業務の概要」を説明し、航空機の事故等が発生した場合の対処について、認識の共有などを図りました。



令和6年度 優秀工事等顕彰状の授与

7月2日、令和6年度優秀工事等顕彰状授与式を開催し、斉藤調達部長から、上北建設 株式会社、株式会社 コウナン、株式会社 東管サービス、株式会社 中屋敷建設、日本工営 株式会社 仙台支店に、顕彰状を授与しました。

東北防衛局では、建設工事等の入札参加者の受注意欲を高め、建設工事等の品質確保等を図ることを目的に、施工状況等が優れ、他の模範となるにふさわしい工事等を顕彰し、技術力の高い企業を積極的に評価しています。



顕彰種別	受 注 者 名	工 事 ・ 業 務 名
優秀工事	上北建設 株式会社 (青森県十和田市)	海自八戸(4)宿舎改修建築その他工事
	株式会社 コウナン (青森県三沢市)	加茂(5)災害復旧工事
	株式会社 東管サービス (青森県弘前市)	青森外(4)隊舎改修等機械その他工事
	株式会社 中屋敷建設 (青森県三沢市)	三沢(4)格納庫改修建築その他工事
優秀業務	日本工営 株式会社 仙台支店 (宮城県仙台市)	反町(4補)災害復旧基本検討

※優秀工事の受注者名は50音順です。

新幹部紹介(7月19日着任)

東北防衛局長 池松 英浩(いけまつ ひでひろ)

【前職：内閣府国際平和協力本部事務局次長】

この度、東北防衛局長を拝命しました池松です。自治体・住民の方々をはじめとする地域の皆様と自衛隊・在日米軍との間の架け橋となることが、東北地方における防衛行政の拠点の長である私の役割であると認識しております。



その役割を果たすために、地域の皆様の声に耳を傾け、それを防衛行政に反映させてまいります。また、自衛隊・在日米軍や防衛施設について、地域の皆様に情報提供してまいります。そして、これら双方向の取組みを円滑に行うための基盤となる、地域の皆様や防衛省・自衛隊・在日米軍関係者との間の信頼関係の構築に平素から努めてまいります。

防衛行政及び東北防衛局に対する、皆様方のこれまでのご支援とご協力に感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

企画部長 佐藤 彰悦(さとう しょうえつ)

【前職：地方協力局在日米軍協力課施設補償・賠償室長】

2年6カ月ぶりの東北防衛局勤務です。これまでの経験を活かし、地元の皆様方のお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。



ドローンの規制についてのお知らせ

小型無人機等飛行禁止法により指定されている**自衛隊施設/米軍施設**その**周辺地域**(周囲約300m)の上空における**ドローン**等の飛行は、**原則として禁止**されています。

これに違反した場合、次のような措置/罰則もあります。

- 警察官等による安全確保措置
- 最大懲役1年/罰金50万円

対象防衛関係施設および飛行をさせたい場合の手続きの詳細については、防衛省HPをご参照ください。



○お問い合わせ先：東北防衛局 地方調整課 022-297-8212

三沢防衛事務所 0176-53-3118

E-mail: drone-th@tohoku.rdb.mod.go.jp (共通)

周辺財産の個人・企業等に対する有償使用許可のご案内

三沢・八戸・松島の各飛行場周辺、三沢対地射爆撃場周辺及び王城寺原演習場周辺に「周辺財産」(移転補償跡地)と呼ばれる国有地があります。

土地の有効活用を図る観点から、周辺財産(移転補償跡地)の行政目的を妨げない範囲で、**個人、企業等に対しても、一定の条件の下、有償での使用許可を行うこととしています。**

○お問い合わせ先

東北防衛局 施設管理課緑化対策係

電話：022-297-8213

○こちらから関連ページへアクセスできます





二本松の秋を彩る、 二本松の提灯祭り

【二本松の提灯祭り】

毎年10月第1土・日・月に開催される二本松の秋の風物詩。1日目の「宵祭り」が一番の見どころで、各町内から鈴なりの提灯をつけた7台の太鼓台が繰り出し、威勢のいい若連の掛け声とお囃子を奏しながら市内を勇壮に練り歩きます。

【安達太良山の紅葉】

標高1700mの安達太良山は日本百名山の一つに数えられており、多くの登山客に愛されています。ロープウェイを利用すると約1時間半ほどで山頂に到着するため、登山初心者や家族連れでも気軽にトレッキングを楽しめるのが魅力です。また、紅葉の名所としても知られており、毎年9月下旬から10月は多くの人で賑わいます。



【二本松の菊人形】

二本松には藩政時代より菊の愛好者が多く、昭和初期から菊人形が街に飾られていました。

その後、昭和30年代から趣向を変え、現在の「菊の祭典」として霞ヶ城公園(国指定史跡「二本松城跡」)を会場に、華々しく開かれるようになりました。現在は、毎年10月の中旬から11月下旬に、あでやかな菊の花で会場全体をうめつくす日本最大級の菊の祭典を開催しています。今年の第68回は「紫式部」をテーマに菊人形が会場を彩りますので、ぜひお越しください。



株式会社藤加工所は、昭和45年、福島県鹿島町（現：南相馬市）において、操業を開始しました。同社は、親会社である藤倉コンポジット株式会社が販売する救命・救難用のゴムボートなどを製造しています。

今回は、株式会社藤加工所の村上雅樹代表取締役兼工場長と藤倉コンポジット株式会社引布（ひきふ）加工品事業部の江馬拓海加工品営業チーム員に、お話を伺いました。

Q1：救命・救難用のゴムボートは、どのような「ゴム」からできているのでしょうか。ゴムボートの素材について、教えてください。

A1：ゴムボートの主要な素材は、ゴムを布織物に貼り合わせた複合材である「ゴム引布」になります。

ゴムは、気体や液体を遮断する気密性は高いものの、引っ張ったときの強度（引張強度）は低いです。一方、布織物は、引張強度は高いものの、気密性は低いです。ゴム引布は、ゴムの気密性と布織物の引張強度という特性のいいところ取りをした複合材になります。

Q2：ゴム引布からどのような工程を経て、ゴムボートは製造されるのでしょうか。

A2：ゴムボートは、大まかに、「ゴム引布を型紙を使用して裁断」→「裁断したゴム引布を接合し成型」→「フックなどの部品取付、表示などを実施」という工程により製造しています。

ゴムボートは、チューブを膨らませ、水上で使用しますので、気体や液体を遮断する気密性が特に重要です。そのため、ゴム引布の接合は、針で穴が開くミシンではなく、接着剤による貼り合わせが基本となります。

Q3：ゴム引布は、接着剤で貼り合わせるのですね。その工程について、詳しく教えてください。

A3：まず、ゴム引布の接着面に、ハケで接着剤を塗ります。接着剤をムラなく均一に塗るため、「接着剤を塗る」→「適度に乾くのを待つ」という工程を3回繰り返してから、接着面を接合します。

接着剤による貼り合わせは、外観では強度が分からないところに難しさがあります。また、接着剤が乾く時間は、湿度や気温によって変わるため、「接着剤を塗る時間」、「接着剤が乾く時間」、「接着面を接合する時間」をバランスよく作業するには、経験が必要です。

当社では、高品質な製品を製造するため、毎月、接着力試験を実施し、社員の技能の維持・向上に努めています。



藤加工所の村上代表取締役（右）と藤倉コンポジットの江馬チーム員（左）



海上自衛隊のゴムボート。写真のゴムボートは、救難機US-2に装備される。



ゴムボートのチューブは、内側が隔膜で複数に区切られており、一部が破損しても、浮力を得ることができる。3つある円形の部品は、空気弁。



ハケで接着剤を塗り、パーツを貼り合わせる。写真は航空自衛隊の航空機搭乗員用の一人乗りの救命ボートのチューブ部分。

在日米軍基地で働く!!



エルモでは、在日米軍基地で勤務する従業員の募集を行っています。

興味のある方は、エルモホームページをご覧ください。か、下記の支部にお問い合わせください。

求人情報提供メールサービスに登録すると、希望する求人情報がホームページに掲載される都度、お知らせメールが送信されますので御利用下さい。

エルモホームページ

求人情報
本州・九州の基地



X (旧Twitter) でも、求人情報等の募集関連情報を定期的に発信しています。
フォローをお願いします。

アカウント名
「在日米軍従業員求人情報 (エルモ) @LMO_recruit」



【窓口応募受付・お問い合わせ先】 エルモ三沢支部 管理課管理係
電話：0176-53-4165 住所：青森県三沢市平畑1-1-25
(担当施設：三沢飛行場、八戸貯油施設、車力通信所)

LMO

検索

<https://www.lmo.go.jp>

編集後記

8月上旬、ようこそわが街へのコーナーで紹介した安達太良山にロープウェイを使って登りました。

天候も良く、山頂に到着した後、北方に延びる稜線の少々先まで足を伸ばしました。目的地は、明治33年(1900年)の大爆発によってできた巨大な噴火口である「沼ノ平火口」です。他の惑星のような非日常的な光景は、圧巻でした。

